大 川 だより

第３号(平成 24 年３月 30 日発行)
発行：大川活用プロジェクト
（事務局　守山市湖岸振興検討会）

大川を里川にかえていくために

大川の再生と今後の活用を地域の皆さん、京都大学、立命館守山中学・高等学校、行政が連携して検討･実施する「大川活用プロジェクト」も活動を開始して１年が経過しました。

この間、私たちは大川を「生活の中にある地域の記憶装置としての川」＝「里川」として位置づけ、まずは「大川に触れ、知ろう」、「できることからやってみよう」と地域の皆さんとともに様々な取組を進めてきました。

４回実施した水草除去では、繁茂するヒシ等の水草を２t トラック３杯分も除去。それぞれが船を持ち寄ったり、陸揚げのための網や水草を根元から切断する鎌を作成したりして、大川に胸まで浸かりながら作業を進めました。

また、子どもたちが大川に触れ、学ぶ機会づくりとして、7 月に「野洲川でんくうの会」を講師に招いた自然観測会を、10 月末には立命館 Sci-Tech 部生物班の指導による環境学習会を開催。透明度や水質、生物調査の結果から、「大川は汚い。ブルーギル等の外来種が多そう」との意見がある一方、「水質は継続して測定することが必要。寒かったので魚が少なかったのかも。来年もやりたい」との声も。なお、水質についてはより詳細で継続的な調査を立命館が手がけており、水質改善に向けた実証実験も本年度からスタートする予定。守山市でも閉鎖水域状態の改善に向け、近隣河川から導水できないか検討を開始したところです。

これらは 12 月３日に美崎自治会館で 150 名もの参加者を集めて開催した「大川フォーラム」の中で取組毎の実施者自身によって発表されました。また、伊藤自治会長、京大安藤氏、立命館八木氏、宮本市長によるパネルディスカッションでは、会場からの「子どもたちに何を伝えるのか」との大きな問題提起に対し、「大川に触れ、学び知ることで『大川』という存在を次世代の子どもたちの『原風景』にしていくこと。『原風景』として相応しいものに地域自らの力で変えていくこと。そのことで大川は『地域の記憶装置』として、かつてのような『里川』として再生する。100 年変わらない環境づくりが必要」との意見が交わされました。

「大川」の将来を考えるパネルディスカッション

プロジェクトの取組は様々な方面からも注目されており、NHK をはじめ京都新聞等への掲載や、京大による「在地と都市がつくる循環型社会再生の実践型地域研究」の研究成果としてミャンマーでの国際ワークショップ等でも取り上げられました。

今年はこれまでの継続とともに、将来像を「未来予想図」として一枚の絵に集約し、再生に向けた基本方針にしたいと考えています。そのために、子どもからお年寄りまで多くの方々の参加の中、描きあげていくことが目標です。

更には水質改善に向け立命館による実証実験とともに、地域による水草フロートを活用した実証実験も計画されています。

大川を「里川」に再生する取組はスタートしたばかりです。皆さんのより一層の参加をお願いします。

（守山市みらい政策課　木村）

大川活用プロジェクト　～今年度の活動と次年度に向けて～

立命館守山中学校高等学校　教諭　八木良明

立命館守山中学校高等学校は地域と連携した取り組みを重視してきました。これまでも、琵琶湖南湖のブルーギルの食性、バイオディーゼル燃料の有効性にかかわる研究などを行ってきました。

この「大川活用プロジェクト」にかかわることになったのも、こうした本校での取り組みを国内外で水環境に関する研究を行っている高校生と交流を図ることを目的とした「高校生国際みずフォーラム in 湖国・滋賀（以下、IWF）」を開催（2010 年 2 月）する過程でできたネットワークがきっかけになっています。「大川活用プロジェクト」に主にかかわっているのは、本校の科学部である「Sci-Tech 部」の生物班のメンバーです。昨年 10 月 30 日に地域の子どもたちを対象に行われた「水環境調査」のティーチングアシスタントとして参加したり、12 月の「大川フォーラム」で大川の水質の分析や水質浄化の基礎実験結果の発表の場をいただき、感謝しております。

次年度は、「大川の水質浄化」に関わって様々な実験・観察を地域の小学生を集めた公開講座（サイエンスキッズ）を 6 月に計画しています。そして、その経験を活かして今後は地域の小中学校への環境出前講座等が開講できるようにしていければと考えています。

また、次年度から新たに開講される「科学探究Ⅰ」（1 年生必修）で「水系生態系の基礎調査方法」の学習の中に「大川活用プロジェクト」の取組を教材にして、地域の水環境問題について興味関心を高めていきたいと思います。今後は 2 年生で選択する「土曜講座」の中に水環境について科学的に探究する講座を設けたり、3 年生の理系生徒が取り組む「課題研究」の研究テーマの 1 つにし、立命館大学をはじめとする様々な研究機関と連携して研究課題の充実・深化を図っていければと考えています。

そして、こうした成果を IWF で培われたネットワークで海外に発信し、「Think globally, Act locally」な生徒を少しでも多く育て、「地域に学び、世界に発信する」立命館守山の学びの充実と地域への貢献につなげていきたいと思います。

水環境調査に取り組む立命館 Sci-Tech 部

プロジェクトの取組にわくわくしながら参加しています　（守山市　みらい政策課　羽田野）

去る 12 月3日（土）に美崎自治会館にてプロジェクト主催による「大川フォーラム」が開催されました▼自治会による水草の除去や立命館守山高校の Sci- tech 部が取り組んだ水質調査などの活動報告も兼ねており、このフォーラムが、今後の大川を地域自身が描き始める大きなきっかけとなればと期待していました▼そして当日、80 名も参加いただければいいなあと考えながら美崎自治会館で会場準備していたのですが、実際には 150 人という大盛況な結果になり、美崎自治会皆さんの関心と大川の秘めたるパワーをひしひしと感じました▼また、この大川での取り組みを京都大学の生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所が、ミャンマーで開催された研究会で発表され、諸外国の研究者から良い評価をいただいています▼国際的に注目されている「大川（OHKAWA）」を通じてのまちづくり、今後の活動にわくわくしています。